

■ 衝突軽減ブレーキ (CMBS)

衝突軽減ブレーキ (CMBS) は、自車が前方の車両 (二輪車含む) のほぼ真後ろから追突するおそれがあるときや、対向車両に正面から衝突するおそれがあるとき、歩行者および人が乗車し移動している自転車 (移動する自転車) に衝突するおそれがあるときに、運転者のブレーキ操作を支援し、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

自車の車速が約5km/h以上になるとフロントワイドビューカメラが前方の車両 (二輪車含む)、歩行者および移動する自転車の検知を開始します。システムが衝突のおそれがあると判断したときにCMBSが作動します。CMBSの作動には衝突の可能性に応じ3つの段階があります。

＜第1段階＞ 衝突のおそれが出てきた状況

警告表示が点滅します。さらに接近すると、警告表示およびブザーによる警報を行います。

＜第2段階＞ 衝突の危険が増し、衝突するまでの余裕が少なくなった状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、軽いブレーキがかかります。

＜第3段階＞ 回避が困難な状況

警告表示およびブザーによる警報を行い、強いブレーキがかかります。

状況によっては途中段階から作動することがあります。

CMBSによるブレーキが作動しているときは制動灯が点灯します。

CMBSの作動により停車、または減速した後は、システムの判断によりCMBSは解除されます。

衝突を回避しようとして、運転者がハンドル、ブレーキペダル、アクセルペダルを操作したときは、システムが解除されることがあります。

CMBSは、あらゆる状況で衝突を回避できるシステムではありません。カメラは天候や速度、路面状況によって検知しにくいことがあります。取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。周囲の状況を確認し、十分な車間距離を保ち安全運転を行ってください。

ご使用前に、必ずご使用になる機種の取扱説明書をお読みください。

取扱説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 踏み間違い衝突軽減システム

踏み間違い衝突軽減システムは近距離衝突軽減ブレーキ、誤発進抑制機能、後方誤発進抑制機能の3つの機能を持ったシステムです。ソナーセンサーによって、自車が、壁などの障害物に衝突するおそれがある場合のブレーキ制御や壁などの障害物があるにもかかわらずアクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合のパワーシステムの出力抑制により、衝突回避を支援したり衝突被害の軽減を支援したりするシステムです。

近距離衝突軽減ブレーキ

約2km/h～約10km/hで走行しているとき、壁などの障害物に衝突するおそれがあるとき運転者のブレーキ操作を支援し、音と表示でお知らせします。

誤発進抑制機能および後方誤発進抑制機能

停車時や約10 km/h以下で走行しているとき、自車のほぼ正面もしくは真後ろの近距離に壁などの障害物があるにもかかわらず、アクセルペダルを必要以上に強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともにパワーシステムの出力抑制をすることで急な前進・後退を防止します。

踏み間違い衝突軽減システムは、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎ、または見落としによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

機能に頼った運転をすると、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者がシフトポジションやペダルの位置および周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 急アクセル抑制機能

アクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる急加速を抑制するとともに、音と表示で知らせる運転支援機能です。車速が約30km/h以下のとき、踏み間違いや踏みすぎでアクセルペダルを素早く強く踏み込んだ場合には、音と表示で知らせるとともに急加速を抑制します。加速抑制状態中に、アクセルペダルを数秒間踏み続けたときや、加速抑制状態になった後、すぐにアクセルペダルを早く強く踏み直したときは、一定の速度まで徐々に加速します。

急アクセル抑制機能はHonda 販売店で機能が作動するように設定されたHonda スマートキーが必要となります。設定についてはHonda 販売店にご相談ください。

急アクセル抑制機能が作動するように設定されていないキーと同時持ち込みをしないでください。

同時持ち込みすると急アクセル抑制機能が起動しないことがあります。

起動のためには必ず設定されているキーで、内蔵キーを使わずに解錠するようにしてください。

急アクセル抑制機能は、運転者の運転を支援するためのシステムであり、あらゆる状況でアクセルペダルの踏み間違いや踏みすぎによる衝突を回避したり、衝突による被害を軽減できるものではありません。

システムに頼った運転をすると衝突など思わぬ事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者はシートポジションやペダルの位置や常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけ走行してください。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種の取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 路外逸脱抑制機能

路外逸脱抑制機能は、システムが車両の車線逸脱、草、砂利などの道路境界や対向車両への接近の可能性を検知すると、路外逸脱を回避するように運転を支援し警告で知らせる機能です。

フロントガラス上部のフロントワイドビューカメラによって左右の白線（黄線）、草、砂利などの道路境界や対向車両を検知し、方向指示器（ウィンカー）を使用せずに白線（黄線）を逸脱した、または、草、砂利などの道路境界や対向車両へ接近したことを判断したとき、作動します。車線区画線（白線や黄線）を検出できない場合、対向車両への接近を回避する支援は行いません。

メーターにより警告を行うとともに、ハンドルを短時間振動させることで運転者の操作を促し、さらに逸脱を防ぐ方向にハンドル操作を支援します。繰り返し路外逸脱抑制機能が作動しても、運転者の操作がない場合は警報音が鳴ります。その後、路外逸脱抑制機能操舵アシスト一時停止警告灯が点灯し、操舵アシストが一時停止して警報音のみで警告します。数分経過すると、警告灯が消灯し機能は復帰します。

路外逸脱抑制機能は、補助システムとして使用してください。路外逸脱抑制機能は、自動運転システムではなく、運転者のハンドル操作に代わるものではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。

ご使用の前に、必ずご使用になる機種取扱説明書をお読みください。
取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 歩行者事故低減ステアリング

フロントワイドビューカメラにより歩行者と白線（黄線）を検出し、路肩の歩行者との衝突のおそれがある場合、表示と警報音で警報します。さらに、ステアリング操作を支援することにより運転者の衝突回避操作を促します。

歩行者事故低減ステアリングは、以下の条件を満たすとき作動します。

- ・白線（黄線）が連続しているとき
- ・車速が約10～40km/hで走行しているとき
- ・直線の道路を走行しているとき
- ・方向指示器（ウィンカー）を使用していないとき
- ・システムがアクセル、ブレーキ、ハンドルの操作の量と頻度から運転意志がないと判断したとき

歩行者事故低減ステアリングは、運転者の運転操作を支援するシステムです。

あらゆる状況での歩行者事故を、軽減したり回避できるものではありません。

取扱説明書に従い使用しないと、衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。運転者は周囲の状況を確認し、歩行者と適切な距離を保ち安全運転を行ってください。

ご使用前に、必ずご使用になる機種の手取扱説明書をお読みください。

取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ 車線維持支援システム(LKAS)

車線の中央付近を走行しているときに、フロントワイドビューカメラによって、左右の白線（黄線）をとらえ、ステアリングの操作をアシストし、車線維持走行を補助するためのシステムです。

車線変更する場合は、方向指示器（ウィンカー）を操作するとLKASが一時解除状態になります。その後、車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKASが復帰します。方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKASが解除されず車線逸脱警報が作動します。

■ 車線維持支援機能

車が車線中央を走行するようにアシストし、白線（黄線）に近づくと電動パワーステアリングの操舵力が強くなります。車が警報エリアに入ると車線逸脱の警報をハンドルの振動と音およびディスプレイ表示で行います。

■ 車線逸脱警告機能

運転状況により、車が車線逸脱を検知すると車線逸脱の警報をハンドルの振動、音およびメーター表示で行います。方向指示器（ウィンカー）を操作するとLKASが一時解除状態になります。

車線の中央を走行しカメラが白線（黄線）を検知すると、LKASが復帰します。

渋滞追従機能付アダプティブクルーズコントロール（ACC）作動中に方向指示器（ウィンカー）を出さずに車線変更すると、LKASが解除されず車線逸脱警報が作動します。

LKASは補助システムとして使用してください。LKASは、自動運転システムではありません。あくまでも運転者をアシストするためのシステムです。機能に頼った運転をすると衝突などの事故につながり、死亡または重大な傷害にいたるおそれがあります。常に周囲の状況を確認し、安全運転を心がけて走行してください。また、高速道路や自動車専用道路を走行するときに使用してください。

ご使用前に、必ずご使用になる機種のご取扱説明書をお読みください。

ご取扱説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ ブラインドスポットインフォメーション

隣接する車線後方に他の車両が走行していることを知らせ、運転者の車線変更などの操作の際の負担を軽減するシステムです。

自車の車速が約20km/h以上で前進しているとき、レーダーセンサーが検知範囲内に走行している車両を検知します。システムが車両を検出したとき以下の条件を満たす場合にドアミラー内のブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯または点滅し、点滅時は警報音が鳴ります。

点灯する条件：

- 約50km/h以下の速度差で他の車両が検知範囲に入ったとき
- 約20km/h以下の車速差で他の車両を追い越したとき

点滅し警報音が鳴る条件：

ブラインドスポットインフォメーション警告灯が点灯している状態で、検知された車両の方向にウィンカー操作を行ったとき

ブラインドスポットインフォメーションは状況により、車両を検知できない場合があります。直接確認をせずに車線変更を行うと、思わぬ事故につながるおそれがあります。

ご使用前に、必ずご使用になる機種のご取扱説明書をお読みください。

ご取扱説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ オートハイビーム

オートハイビームは夜間走行時に前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてヘッドライトのハイビームとロービームを自動的に切り換えるシステムです。

オートハイビームが作動しているとき、以下の条件によりハイビームとロービームが自動で切り替わります。

ハイビームへの切り替え

以下の3つの条件をすべて満たすとハイビームに切り替わります

- ・車速が30km/h以上
- ・前方にライトを点灯した車両がない
- ・前方に街灯などの光がすくない

ロービームへの切り替え

以下の3つの条件のいずれかを満たすとロービームに切り替わります。

- ・車速が24km/h以下
- ・前方にライトを点灯した車両がいる
- ・前方に街灯などの光が多い

ご使用前に、必ずご使用になる機種種の取扱説明書をお読みください。
取扱い説明書は、Hondaホームページにて、閲覧可能です。

■ アダプティブドライビングビーム

夜間走行時にフロントワイドビューカメラで前方車両のライトや街灯などを検知し、状況に応じてハイビームとロービームが自動で切り換わります。また、先行車や対向車への眩惑を軽減するため、ハイビームの配光が自動で調整されます。さらに、ロービーム点灯中、かつ車速40km/h以下ではロービームの照射範囲を広げ、左右の視認性を向上させます。

システムの作動

以下の条件をすべて満たすとアダプティブドライビングビーム表示灯が点灯し、状況に応じて自動的にハイビームの配光が調整されます。

- パワーモードがONモード
- ライトスイッチがAUTOの位置
- レバーがロービームの位置
- ヘッドライトが自動で点灯している
- 車両の周囲が暗い

アダプティブドライビングビームを正しく動作させるために次のことをご守りください。

- インstrumentパネルの上に光を反射するものを置かない
- カメラ付近のガラスはきれいしておく
- フロントガラスのお手入れのときは、ガラスクリーナーがレンズに付着しないようにする
- カメラ付近のガラスにアクセサリ、ステッカーやフィルムを取り付けない
- カメラのレンズに触れない

アダプティブドライビングビームはあらゆる状況で作動する機能ではありません。

あくまでも、運転者をアシストするための機能です。

常に周囲の状況を確認し、必要に応じて手動でハイビームとロービームを切り換えてください。